

競 技 注 意 事 項

本大会の競技は、2018年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会要項により行う。

1. ウォーミングアップ・練習について

サブグラウンドは他団体が専用使用する予定である。したがって、ウォーミングアップや練習は、すべて競技場北側の全天候走路または競技場内の室内練習場を使用することとする。ただし、競技場内の練習は第1日目は8：45まで、第2日目は9：15までは可能とする。また、1日目開始式終了後～13：00まで、14：10～15：40までの時間帯は、バックストレートでの練習を認める。(ハードル等器具の使用は禁止)。ただし、円盤投、棒高跳の競技中となるので、競技役員の指示に従うこと。また、1日目の14：30～15：00までの間、サブグラウンド横の全天候走路に練習用ハードルを設置するので使用してもよい。投てき種目においては、砲丸・円盤を用いた練習はいかなる場所においても認めない。

2. 招集について

ア. 競技者の招集場所は、北ゲート（100mスタート地点外側）を出たところに設ける。

イ. 招集開始時刻はその競技の開始時刻を基準とし、下記のように定める。

トラック競技1～5組・・・30分前に開始し20分前に終了する。

6組以降・・・10分前に開始し競技開始時刻に終了する。

フィールド競技・・・50分前に開始し40分前に終了する。

(ただし、円盤投は60分前に開始し50分前に終了する。)

ウ. 招集の手順

① 競技者は招集開始時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。

その際、係員にナンバーカードとスパイクの確認を受けたのち、係員の誘導に従って入場する。

② 四種競技出場者は両日とも最初の種目のみ招集所でウの①に従い競技者係の点呼を受ける。以降は現地招集とする。フィールド競技の招集完了時刻は、その競技の開始時刻30分前とする。

3. 競技について

ア. 危険防止のため、各走者はフィニッシュ後レーンに沿って曲走路を走る。

イ. 本大会のトラック競技はすべて電気計時とする。したがってトラック競技出場者は右腰やや後方に、主催者が用意した腰ナンバーカードをつける。フィニッシュ後はその腰ナンバーカードを役員に必ず返却する。

ウ. トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順とする。準決勝以降の組み合わせは、番組編成員により公正に抽選のうえ決定する。編成された組み合わせは招集場に掲示する。

エ. 準決勝あるいは決勝進出における α は100分の1秒単位とする。同タイムが多くレーンが不足する場合は1000分の1秒まで読み取り進出者を決定する。ただし、同記録者がありレーン数が不足する場合は、本人の抽選により決定する。

オ. ナンバーカード（横22～24cm×縦18～20cm）は個人登録番号とし、太さ2cm程度の明瞭な文字で書いてユニフォームの背と胸に付けること。（跳躍競技は背または胸いずれか一方でよい。）

カ. 400m（4×100m、ハードルを含む）までのトラック種目において、7名（チーム）以下の出場予定者の場合は第2レーンより使用する。

キ. リレー競走について

① リレー競走については、競技規則第170条を厳守すること。(オーダーの編成は別紙「リレー競走についての注意事項(確認)」を厳守すること。)

② 同一チームの4名は同一のユニフォームを着用することが望ましい。

③ 各走者は1カ所にかぎり粘着テープをマーカー（テープの大きさは50mm×400mm以内）として使用できる。

④ 各走者はバトンの受け渡しを終えた後は、他の競技者のじゃまにならぬようレーン内にとどまること。

⑤ リレーオーダー用紙は、第1日目の学校受付で所定の用紙を1チームにつき2部ずつ受け取り（『スパイクの跡』綴じ込みのもの可）招集開始時刻1時間前までに競技者係に提出すること。決勝進出の場合も競技者係から改めてリレーオーダー用紙を受け取り提出すること。第2日目に行われるリレー種目のオーダー用紙の提出はできるかぎり第1日目終了までに提出されたい。（ただし15：40まで）

ク. 走高跳、棒高跳以外のフィールド種目については、競技運営上、下記の記録にとどかない者は測定しない。

(男子) 走幅跳4m50 三段跳10m00 砲丸投7m00 円盤投20m00

(女子) 走幅跳3m70 砲丸投7m00 円盤投15m00

ケ. 競技規則第162条5(c)『「位置について(on your marks)」の合図の後、ある競技者が音声その他の方法で、他の競技者の邪魔をしているとスターターが判断したときは不正スタートとみなされる』により、スターターの「位置について」の合図で「お願いします」等のかけ声はかけないこと。

- コ. 「不適切なスタート動作（不適切行為）」があった場合は、グリーンカードによる注意を与える。また、同一競技者による注意が多発した場合は、審判長等により警告を与えることがある。（競技規則第162条5（d）（e）（f））同じ競技者が同じレースの中で2度の警告があった場合は、不正スタートとみなす。不正スタートを行った競技者は1回で失格となる。（ただし、混成競技については、不正スタート2回目以降は誰でも失格の対象となるルールを適用。）
- サ. 次のラウンドへ進出できた競技者で、やむなく次のラウンド（準決勝・決勝）を棄権する場合は、総務まで棄権届を提出すること。棄権届は総務から受け取ること。

4. バーの上げ方

	種 目	練 習	試 技 に お け る 上 げ 方
男子	走 高 跳	1 4 0 c m	145 - 150 - 155 - 160 - 165 - 170 - 173 - 176・・・
	四種走高跳	1 3 5 c m	140 - 145 - 150 - 155 - 160 - 165 - 170 - 175・・・
	棒 高 跳	2 1 0 c m	220 - 240 - 260 - 280 - 300 - 310 - 320 - 330・・・
女子	走 高 跳	1 2 0 c m	125 - 130 - 135 - 140 - 145 - 148 - 151 - 154・・・
	四種走高跳	1 1 5 c m	120 - 125 - 130 - 140 - 145 - 150 - 155 - 160・・・

第1位が同成績の場合の順位決定は、同成績の競技者全員が成功したつぎの高さで行い、その後のバーの上げ下げは走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。

5. 表彰・学校対抗および得点について

- ア. 決勝において第3位までに入賞した競技者は、決勝結果の通告後すみやかに表彰席に集合のこと。（表彰には競技服装・運動靴で臨むこと。）
- イ. 学校対抗における団体表彰は男子総合・女子総合・男女総合とも第3位まで行う。
- ウ. 学校対抗得点は各種目1位8点、2位7点、・・・、8位1点とする。

6. 救急医療について

出場競技者の競技中の疾病および傷害については、応急の処置は行うがそれ以後の責任は一切負わない。また、大会中の疾病および傷害については、必ず総務に届け出ること。

7. 開始式について

開始式にはフィールド芝生保護のため、各校5名程度が出席し、学校番号順に整列すること。

8. その他

- ア. 応援などを含め競技のマナーをよく守り中学生競技者として恥ずかしくない行動をとること。競技運営に支障ある行為をしたときは、審判長あるいは場内指令は競技規則第125・133条に基づき当該者に対する警告あるいは競技からの除外を命ずることができる。さらに当該者のチームに以降の出場を辞退してもらうこともありうる。また、施設・用器具の使用については大切に取り扱い、清潔美化に努めること。特に更衣室・便所などの使用は常に清潔保持に留意すること。
- イ. 競技者・競技役員・補助員・大会役員・報道関係者以外の者は競技場内には入らないこと。とくに選手の付き添いや応援または記録を測るためなどの理由で入らないこと。また、競技者はトランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用しないこと。（第144条により競技者への助力とみなされ失格となる場合がある。）
- ウ. 競技場での競技者の移動はスタンド外を利用すること。特に本部前の通行およびメインスタンド下は立ち入り禁止とする。
- エ. 助走マークやリレーマークなどで使用したテープは、確実にはがして持ち帰ること。
- オ. 自校応援席の清潔保持に努めること。ゴミは各校で確実に持ち帰ること。
- カ. メインスタンド中段より上部のみテント類の設置を許可する。また、観覧席最前列には立たないこと。
- キ. 芝生スタンドで、グラウンドシート等を地面に敷くことは禁止する。
- ク. 芝生にテント等をたてる場合、ひもをバックフェンスにくくるとは禁止する。バックフェンスを使つての横断幕の設置も禁止する。
- ケ. 競技開始前の競技場でのウォーミングアップは1・2レーンを周回レーン、3～8レーンを流し・ダッシュレーン（ただしメインストレートの7・8レーンはハードル専用レーン）とする。また、リレーのバトン練習に関してはバックストレートのみとする。